

急性冠症候群（心筋梗塞、不安定狭心症）について

文責：徳永 竜馬

急性冠症候群とは心臓を栄養する冠動脈が急速に狭窄・閉塞し、心臓の筋肉（心筋）が虚血・壊死に陥る疾患です。急性心筋梗塞と不安定狭心症がこれにあたり、緊急で治療を行わないと心臓が止まり、死に至ります。原因は動脈硬化による冠動脈の狭窄・閉塞が主で、緊急で冠動脈造影検査を行い、冠動脈を拡げる治療が必要になります。治療は早ければ早いほど良いので、経験したことのない胸痛（その他に、息切れなどの非典型的な症状も起こりえます）等がある場合にはできるだけ早く医療機関を受診して下さい。

大事なこと

- ✓ 突然の胸痛や息切れなどの症状が出現した場合は、できるだけ早く医療機関を受診する。
- ✓ 医療機関では急性冠症候群かどうかを心電図、採血検査を用いて早期に判断する。
- ✓ 急性心筋梗塞の場合は発症から 120 分以内にカテーテル治療を行う。
※ できるだけ早期にカテーテル治療が可能な病院に搬送し治療を行う。
- ✓ 急性冠症候群治療後は薬物治療およびリスク因子の除去を行い、再発予防に努める。
- ✓ 動脈硬化が最大の原因。禁煙、生活習慣病の予防など、リスクを減らすことが大事。
- ✓ 労作性狭心症(動いた時に胸が痛くなる)など冠動脈の狭窄が疑われる場合は、予防の薬物療法を行う。

- ・ 急性心筋梗塞は日本において 10 万人あたり 50 人発症する（欧米の約 5 分の 1）。
- ・ 欧米の先進国では 1980 年代中頃から心筋梗塞は減少（喫煙の減少による可能性あり）。
- ・ 心筋梗塞の 70%は冠動脈の 50%以下の狭窄で突然起こる（予兆がない）。
- ・ 心筋梗塞全体の約 15%は発症早期に院外心停止を生じる。
- ・ 女性は閉経まで高濃度のエストロゲンによって発症が抑制される。

・ 心筋梗塞、不安定狭心症 の原因

- ① 動脈硬化：動脈硬化による脂肪性プラーク形成で血管狭窄し、破綻して血栓が形成され血管閉塞する。
- ② 冠動脈の攣縮(痙攣)、解離、塞栓(血栓による)、炎症。 ※冠動脈の閉塞を伴わない心筋梗塞もある

・ 心筋梗塞、不安定狭心症 の場合に必要な検査

- ① 心電図検査
 - ② 採血検査：主にトロポニン検査（心筋障害に伴う他の血液検査異常もチェックする）
 - ③ (胸部 X 線検査、心臓超音波検査：診断の一助になる。緊急の時には不要)
- ※ 急性冠症候群かどうか(緊急で治療が必要か)をできるだけ早く調べて、緊急治療へ。

・ 心筋梗塞、不安定狭心症 の治療

- ① 冠動脈造影検査前の初期治療：酸素投与、運動制限、抗血小板薬投与（血液をさらさらにする）、硝酸薬(冠動脈を拡げる)、鎮痛薬、鎮静薬
- ② 冠動脈造影検査、冠動脈拡張術：発症から冠動脈の再開通までが早いほうが良い。発症から 120 分以内に治療を行うことが目標。施行困難な場合は血栓溶解療法(引き続いての冠動脈拡張術)も検討する。
- ③ 急性冠症候群に対する 2 次予防：再発を防ぐための治療。抗血小板薬、抗凝固薬(心房細動等がある場合)、脂質低下療法、急性冠症候群に伴う心不全に対する治療、禁煙(喫煙は動脈硬化の最大リスク)

Tel : 096-368-2896

E-mail : tokunaga.cl@gmail.com

ホームページ : <https://www.tokunaga-cl.jp>

内科
とくなが胃腸科クリニック
外科